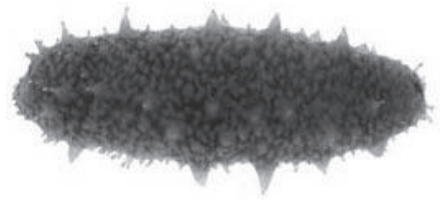


マナマコ *Apostichopus armata*



地方名：あおなまこ、くろなまこ

生態

- ①寿命：10年以上
- ②成熟：6歳、約300g
- ③産卵期：5月～7月（水温13℃～16℃前後）
- ④分布：沖縄県を除く日本全国のほとんどの沿岸の、潮下帯から水深40m前後までの砂礫、転石、岩盤域
- ⑤生態：ふ化した幼生は2週間～3週間浮遊生活し、稚ナマコに変態・着底する。2歳以上は1年で約60g成長する。浮遊幼生期間は植物プランクトンを餌とし、着底後は浮遊珪藻や付着珪藻、砂泥中の植物性有機物などを餌とする。夏の高水温期には、岩盤や転石などの隙間で、夏眠と呼ばれる休眠状態になる。従来のマナマコは色によってアオナマコ、クロナマコ、アカナマコに区別されていたが、近年の研究では、アオナマコとクロナマコは同一の標準和名マナマコ、学名 *Apostichopus armata*、アカナマコを別種の標準和名アカナマコ、学名 *A. japonicus* とするのが一般的となっている。

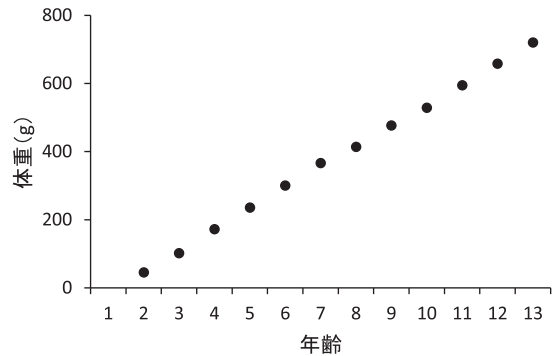


図 青森県におけるマナマコの成長(陸奥湾)
出典：遊佐(2020)R元年度青産技セ水研事業概要年報, 75-76.

主な漁業

本県の各沿岸で漁獲されるが、陸奥湾が県漁獲量の大半を占める。けた網、たもを使った底見、潜水等で漁獲され、冬季が漁期の中心となる。

漁獲の動向と水準

1975年以降400トン～900トンで推移していた漁獲量は、1988年の293トンの最低以降急増し、2007年は1,653トンの最高を記録した。2014年以降は減少傾向にあったものの、2025年の漁獲量は前年からさらに増加して1,040トンとなった。

2025年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を3等分し、上から高位、中位、低位とすると、中位だった。

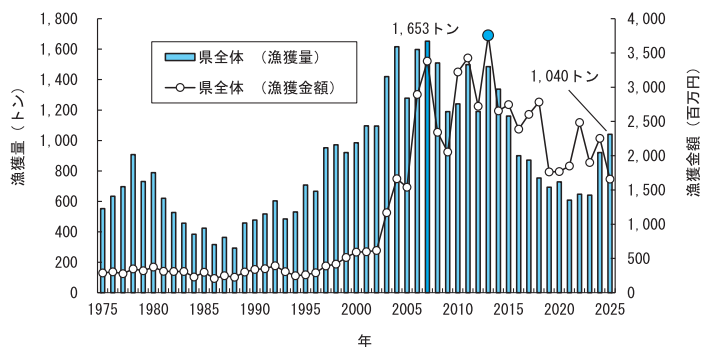


図 青森県におけるナマコの漁獲量及び漁獲金額の推移

資源を上手に利用するために

- 青森県における自主的管理措置等
- ・各地区ごとに、保護区域の設定や漁具の制限、小型個体の再放流などが行われている。

☆青森県漁業調整規則により、漁具の制限(なまこけた網：網の目合6cm以上)や5月1日～9月30日の採捕を禁止しており、これを遵守する必要がある。

